

みんなでつくるお祭り！ 第43回「東海やったん祭」

東海やったん祭は、子どもたちのための「手作りのお祭り」です。青少年関係団体によるさまざまな体験型の模擬店やアトラクション、軽食などの出店があります。ぜひご来場ください。



期日▼9月13日(日)

時間▼午前10時～午後1時 ※荒天時は規模を縮小して実施します。

場所▼歴史と未来の交流館

問い合わせ▼東海やったん祭実行委員会事務局(歴史と未来の交流館内 ☎287-0851)



ふるさと歴史訪 ―自然を探して―

普通種となった外来生物「アカボシゴマダラ」

茨城キリスト教学園中学校教諭

中村 篤史

木々の緑が鮮やかになると、黒と白のしま模様(マダラ)に赤い斑紋が目立つ羽を持つチョウ、「アカボシゴマダラ」の飛翔する姿が見られます。アカボシゴマダラは中国、朝鮮半島、台湾、日本の奄美群島に生息する、タテハチョウ科に属する昆虫です。本州で見られるものは、大陸原産のものが人によって放蝶されて生息域を広げたと考えられています。茨城県では15年ほど前から県西地域で発見、採集され、その後も分布を拡大して、現在の東海村では普通に見られるチョウになっています。

成虫はコナラなどの樹液や花の蜜を吸うため、日中に樹液の出ている木を探していると、カナブンたちと共に樹液に集まっている姿を見ることが出来ます。また、夏に発生する個体は特徴的な赤い斑紋を後翅にもちますが、冬を越して春先に発生する個体にはこの赤い斑紋がないため、一見すると他種のチョウに見えます。

幼虫の食樹は村内各所に生育している落葉広葉樹のエノキです。幼虫は頭に2本のツノがあり、背中には三角形が2つ並んだ鱗片状の突起を4対持っています。

村内には幼虫がエノキの葉を食べるチョウが複数種生息しており、これらの間で餌資源や生活空間をめぐっての競争が懸念さ

れます。特にオオムラサキやゴマダラチョウといった在来(トビ)のチョウよりもアカボシゴマダラの方が優位であるようです。この3種の幼虫はよく似た姿をしています。背中の鱗片状突起と尾端の突起の開き具合で見分けることができます。

これらの幼虫は冬越しのために、根元近くの落ち葉の裏に身を隠します。エノキの木を見つけたときには、ぜひ幼虫たちを探してみてください。ただし、アカボシゴマダラは特定外来生物に指定されているため、生きたまま運ぶことや飼育することはできません。

今後の村内の生物相がどのように変遷していくのか、継続して観察する必要性を感じています。



アカボシゴマダラの幼虫。背中の鱗片状突起が4対あり、3対目の突起が大きいこと、尾端の突起が閉じていることが特徴。